

信濃中学校開校の歴史について

2024/4/26 札幌市立信濃中学校長 岸本 淳志

5月1日は信濃中学校の開校記念日です。地域を開墾・開拓した先人の苦労と教育への情熱に思いを寄せ、「しの魂」を受け継いでいきましょう。

※「札幌市立濃中学校50周年記念誌」より抜粋

厚別地区に子どもたちを教える塾が出来たのは、今からおよそ110年前（現在から136年前）の明治21年（1888年）ということであるが、実際に学校としての体裁が整えられたのは、明治26年（1893年）の「信濃簡易教育所」に遡る。しかも、この学校の建物は、地域の人々の寄付によって作られたものであった。

学校名の由来は、信州から移ってきた人々が中心となって作ったので、いつまでも故郷の名を忘れないように、信州（長野県）を別称、信濃ともいったことから「信濃」と名付けられたのである。

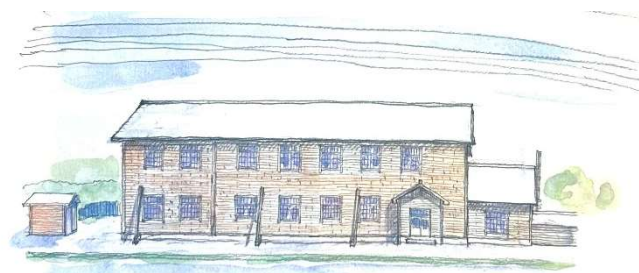
昭和22年、新制中学の一つとして生まれた我が母校・信濃中学校は、新制の中学校の発足とともに、昭和22年（1947年）5月1日、白石村立信濃中学校として開校している。現在の札幌市で同時開校した中学校は、18校である。当時の中学校の所在地名は、白石村字厚別（現在の信濃神社の南側）であった。「信濃」という名の由来は、言うまでもなく「信濃小学校」同様、信州信濃からの先住者に困ってつけられている。開校時は、信濃小学校に併置という形をとっていたが、言うなれば小学校の教室をにわか改造した間借りであった。全生徒数は、248名である。これは、小学校六年間、高等科二年間という旧学制を引き継いで構成されている。

生徒は、厚別地区はもとより上野幌、下野幌、小野幌、大谷地、西の里あたりからも通学してきていた。当初は、間借り教室の関係で二部授業であった。午前中は、小学生、午後から中学生の授業と課外活動を行うものである。こうして翌年の昭和23年の3月21日には、第1回卒業証書授与式が挙行され、男子14名、女子10名の計24名が証書を受け取っている。

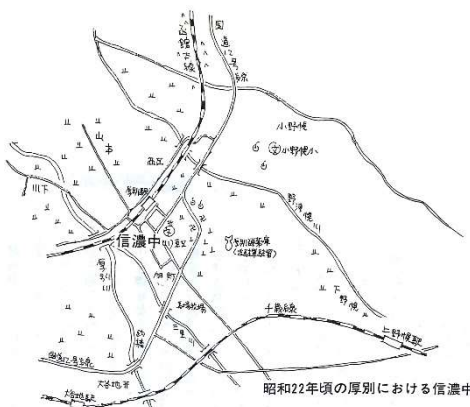
このころの校舎の状況としては、小学校の校長室や石炭庫だったところも教室として使っていた。当然、便所、体育館は小学校と共用であり、理科、音楽、工作、家庭科などの特別教室はなく、雨が降ると教室の半分くらいまで水浸しになり、冬は、いくらストーブの火を燃やしても、隙間だらけの教室は暖まらず、ふるえながら授業を受けていたとある。



信濃小学校と同居時の小学校校舎と体育館



昭和22年頃の信濃中学校舎
K. S. 画



昭和22年頃の厚別における信濃中